私の好きな最低男

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私の好きな最低男

【Ｎコード】
Ｎ３３６６Ｌ

【作者名】
鈴夜　音猫

【あらすじ】
【こっちを向いて】【知りたい気持ち】の続編。
やっと完結です。
甘酸っぱい青春の一ページをお楽しみくださいｍ（＿＿）ｍ

あなたを初めて見たのは入学したての頃。
あなたの周りはいつも人だかりができていた。
「かわいい」
「女の子みたい」
口々に発せられる言葉に、あなたがあんまり嬉しそうじゃないのにはすぐ気付いた。
席が隣になったことでだんだんと話すようになってから、あなたのコンプレックスがそのかわいい顔だと知った。
私には羨ましいくらいだけど、あなたは男の子だもんね。
話してくれた時の顔は、どこか悲しげで。
まるで捨てられた子犬みたいで、私の心を揺らしたの。
それからあなたを好きになるのに然程時間はかからなかった。
女の子に酷いことする最低な男の子だけど、私は知ってるよ。あなたは本当は優しいんだって。
「おい、教室戻るぞ」

予鈴がなって、あなたはすぐに立ち上がる。
でもトロい私はすぐには立てなくて。
もたもたしてるとあなたの声が降ってきた。
「お前、本当トロいのな」
そう言いながら待っていてくれてる。
ほら、やっぱり優しい。
「悪かったわね」
拗ねてみながら嬉しくなる。
そんな私の頭に手を乗せて、しゃがんだあなたはニッコリと笑った。
「お前らしくていいよ」
「…どうして私といてくれるの？」
あなたにとって女の子は興味がない存在だって知ってる。
じゃあ私は？
あなたの目にどう映ってる？
「俺はお前に興味があるから」
興味がある、その言葉にポカン、としていると額を小突かれた。

「こんだけ言ってんだから気付けよバカ」

「え？え？？」

額を押さえて戸惑う私に悪態をつきながら、その顔がほんのり赤い

その意味は、私の自惚れじゃないんだよね？

【Ｅｎｄ】

（後書き）

ようやく完結となりました。ここまで読んでいただきありがとうございます（＊＾＾＊）

読者さまの中には物足りない方もいるかもしれませんが、腹八分ん目ですよ。

この先は皆様のご想像にお任せします☆

まだまだ未熟で拙い作品ではありますが、ここまで読んでくださりありがとうございましたｍ（＿＿）ｍ

また次回お会いできますよう☆

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3366l/

私の好きな最低男

2010年10月18日01時29分発行